書名:通俗忠義水滸伝作者:岡島冠山編訳

拾遺は丟甩道人補 植村藤右衛門他

頁碼: 22~25

出版時間:宝暦7(1757)年 寛政2(1790)年

玉に、此意

部議

日臣愚意ヲ以テ此

幾度で御祈

云者列

急丰 直 民党で 御感科ナラズ急ギ嗣漢天 アラ 殿下了 ンニが有てい 教使ヲ迎奉 程言未 道彩鐘等 信え朝使上 ト云ったタツ 病然三除去動 傳來で天災え 入玉る住 投資動力 八百分雑天 中元道行天 力 ヲ鳴シ鼓ヲ ダ旬日ヲ經ズシテ 山ニ往嗣漢天師張真グラ 之二過 御手自是ヲ洪太尉ニ付與シ ル動使 日都ヲ發足し。馬二策 定サ世玉上即金殿上二於元部書 アラン で神通廣大人 師張真グラ請待有へ で静謐と貴殿萬處ヲ論 ヲ ハ上清宮ノ 修レメア・天災 靈法也願 ノ秘法アル名テニー 信州 慇懃二禮 前三拜代ソ 夜生ラ り天師ヲ都ニ請 山ノ麓ニ至ル・又上清宮 著寫ヲ聞。衆皆郭外 蓋ヲ持連樂ヲ奏シテ 中江 前ニテ馬ヲ ラン 道士ア ニコ 日。長路無為早 夜ヲ日ニ續テ ブが対射 2。嗣漢天 夫師ハ モ線作機等 二辭别 ル・又楽 六百 日

セレメョは

持ガ日常

三在りた。早の

迪俗忠義水滸伝

卷之一(上)

八个人許事是二